在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/01 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集　センター試験　自己採点　そして出願へ

　新年あけましておめでとうございます。３年生はいよいよ今週末「大学入試センター試験」に臨みます。
やってきたことを信じて頑張るのみです。２年の皆さん、受験まで、あと３６５日程度ということです。頑張っていきましょう。
　今回は、今週末に迫ったセンター試験当日・自己採点日等についての確認です。３年生のみなさん、ここまで準備してきたのですから、まだ最後できることはあります。気持ちの上でリラックスすることは大切なことですが、最後の最後まで粘り強く復習して、おさらいして、確認して試験に臨んでください。

１　センター試験当日　気をつけたいこと

①「受験は合計点勝負である」ということを絶対忘れてはいけません

　すべての科目において、十分に力を発揮してほしいのですが、「出題傾向が変わった」「模試ではとれたのに本番できなかった」「時間が足りず最後まで解答できなかった」さまざまなことが起こりうるのも事実です。特に特定の科目の試験に失敗した場合、次の試験科目にもそのダメージを引きずる人がいます。「国語でつまずき、その後の英語も・・・」などということが、１番もったいないことです。自分ができないということは、平均点も下がるかも、と思い直し、気持ちを切り替えることが大切です。このように、言うのは至極簡単なのですが、実際は難しいのではと考える受験生もいるかもしれません。それでも今まで頑張ってきたことを最大限生かすためにも、失敗にめげている場合ではないのです。覚えておいてください、受験は合計点勝負です。合計点が勝っておれば合格するという公平な勝負の場です。失敗しても切り替えが大切です。

②試験終了後の休み時間は「次の科目の準備」をする

　試験が終了すると、「あの問題どうだった？」などと答え合わせをすることもあるかもしれません。絶対するなというのは、実際難しいかも知れませんが、済んだ科目の解答合わせではなく、次の試験科目の準備をしましょう。当たり前なのですが、試験場でも「当たり前のことを当たり前にできる人」は強いものです。

③マークシートを提出する前には「消しゴムのカス」を落とす

　センター試験の解答用紙であるマークシート用紙についたままになった「消しゴムのカス」に機械が反応したという事例が報告されており、センター試験の「受験案内」にも「消しゴムのカス」をきちんと落とすよう注意書きがあります。些細なことのように見えると思いますが、意外と大切なことです。

④当日の忘れ物ナンバーワンは「時計」

　受験票や鉛筆など持ち物で大切なものはたくさんありますが、先輩方が１番当日忘れたものが、腕時計です。大きな置き時計やキッチンタイマーは使用できませんから、注意してください。時計の時刻も合わせておきましょう。

⑤試験監督者の指示、問題冊子の注意書きを大切にする

　以前も進路通信で述べたように、今年度は、新課程入試とのかねあいや選択問題が出題される科目等もあり、特に注意が必要です。試験監督者の注意をよく聞き、問題冊子の注意事項にきちんと目を通すことが大切です。これも当たり前のことですね。

⑥自己採点できる状態にする

　特に当てずっぽうでマークした問題があったとしても、必ず、どれにマークしたか自己採点できるように印を付けておきましょう。マークすることに必死になって、どれにマークしたかわからなくなる人もいます。せっかくマークしたのに、どれにマークしたかわからない場合は、結局その問題は不正解だったとして自己採点するしかありません。
　当てずっぽうでマークした問題も自己採点できるようにするのが鉄則です。

⑦国語を現代文のみで受ける人へ→「古文漢文の問題もマークすること」

　国語において、現代文のみで受験する人、試験時間は現代文・古文・漢文とすべて受ける人と同じく８０分です。余裕が生まれるはずですから、古文・漢文の問題にもマークすることを忘れずに。
その際、自己採点できるよう、どれにマークしたかわかるようにしておいてください。

⑧受験科目のマークし忘れ、段ずれに注意する

　理科や地歴・公民、数学等において、受験科目欄にマークすることを忘れずに。脅しはなく０点になります。
　またマークシートの段ずれにも注意が必要です。<u>見直しが大切です。</u>

⑨センター試験初日終了後するべきことは、２日目の学習である

　これも当たり前のことなのですが、意外とできない人が多いです。当たり前のことができないというのは、勝負に負ける可能性を増やすだけですから、避けましょう。情報が氾濫している現代ですから、「この教科の平均点は上がりそうだ」とか「平均点は何点ぐらいになりそうだ」とか、さまざまな情報が飛び交います。自分が失敗したかもと思う科目の情報は特に見てみたいという気持ちは、何となく分かります。<u>しかし、その時間が無駄なのです。</u>スマートフォンなどを利用してこのような「センター試験情報」を見始めるといくらでもあると思います。そこに気をとられている暇があるなら、２日目に実施される科目の勉強をするべきです。情報を見ても、終了した科目の点数は上がりも下がりもしません。余計なことに心惑わされず、淡々と次の日の準備をしてください。
　１日目の答え合わせ等をしている時間があるのなら、しつこいようですが、次の日の準備をするべきです。

⑩センター試験２日目終了後は、早めに休もう

　センター試験が終了した日は、本当に疲れていると思います。ほっとして早めに休んで体力を回復させるのは、よいことです。しかし、ここでも情報もどきの虜になる人が出てきます。深夜まで「平均点がどうだ」とか「〇×大学のＢ判定値は何点になりそうだ」とかさまざま情報が気になる人がいるかもしれません。上述した通り、そんなものに振り回されている場合ではありません。
　すべきことは、早く休んで次に備えることです。

⑪不測の事態に備える

・保護者の方に「受験票」のコピーを渡すか、鮮明な画像として渡しておく。
　（本人が当日事故等に巻き込まれた時、大学に保護者の方が代理で連絡する際、受験番

号等の情報が必要になります）
・担任の先生の連絡先を確認する。
・何かあったら、担任の先生・問い合わせ大学（受験票に記載されている）に連絡する。

２　自己採点日について

２日間のセンター試験が終わって次の日、つまり、１月１９日（月）は学校において、センター試験の自己採点を行います。自己採点日には、「河合塾」「ベネッセ・駿台」に送付する自己採点シートにも記入することになります。そこには、志望校を記入する欄もあります。
この日は、やむを得ない場合を除き、センター試験を受けた者は休まないでください。各予備校等に資料を発送し、それをもとにボーダーライン等が決まります。資料の追加発送はできませんから、当日休んだ人の分の自己採点結果は予備校等に発送できません。自己採点日の注意点をまとめておきます。

①制服で平常通り登校。自己採点は各ＨＲ教室で。

②説明のあと、自己採点。終了した者から解散。遅くとも 11：00 には終了しています。

③担任の先生・副担任の先生・進路指導担当者には、自己採点結果の集約・入力・発送等の業務があります。いろいろと相談したいこと、しなければならないことがあるかもしれませんが、集計の業務が終わるまでは、対応できません。この日は、相談できないものと一応思っておいてください。

☆自己採点日の持ち物

１　センター試験の問題冊子（自己採点できるようになっているはず）

２　筆記用具（えんぴつ・黒ボールペンも忘れずに）

３　電卓（小さすぎると使いづらいので注意）

３　「昔ながらの調べ方（アナログ調べ)」も活用して出願校を決める

センター試験が終了した次の日、自己採点し、その結果が集計され、志望校の判定等が出るのが、週末です。志望校に予定通りに出願できる人もいれば、志望校を変更しなければならない人もでてきます。最後、出願する学校は、どのように決めればいいのでしょうか。今は便利な時代で、パソコン上で志望校の合格可能性の判定等を確認することもでき、教員もこのシステムを利用します。
ただし、注意してほしいのは、便利で、あれこれ調べられるので、ついついこのシステムの判定だけを信じて出願してしまいがちです。６月の進路説明会でも述べたように、私見ですが、このシステムは、昔ながらの調べ方（アナログ調べ）と併用することによってもっとも効果を発揮すると考えています。昔ながらの調べ方とは、過去３～５年分の合否の分布表（ベネッセ・駿台、河合塾の２種類あり）や、記述模試の偏差値による合否分布表（ベネッセ・駿台）など、紙の資料を使う調べ方のことです。この資料は職員室や進路室にあります。パソコンの判定システムだけでなく、それらの資料をも丹念に確認しながら、出願校を慎重に選んでいきましょう。

４　センター試験後の１週間を無駄にしない

センター試験が終わると、気が抜けて、１週間ほど、のんびり勉強してしまう人が毎年います。ほっとする気持ちは何となくわかりますが、この１週間を無駄にしてはいけないのです。志望校の判定も気になり、出願校もまだ決まっていない「宙ぶらりん」状態に感じてしまうのでしょう。しかし、看護学校入試・私大入試・国公立大個別試験と入試は、まさに「これから」です。私大入試まで、１ヶ月をきっている現状において、また、国公立大個別試験まで５週間もないという現状において、１週間を無駄にすることが、どれほど結果を左右するか想像してみてください。出願校が決まらない状態では勉強しづらいかもしれませんが、条件はみんな一緒です。勉強する手を緩めてはいけません。私大入試も最後の追い込みが大変重要です。文系の人は特に私大の地歴公民を追い込む絶好の機会です。センター試験後の１週間は、結果を左右する大事な１週間なのです。勉強しつつ、出願校もしぼっていくという作業になります。

・センター受験票に写真を2枚（裏に氏名明記）を貼っていますか。
・受験票と一緒に渡されている「受験上の注意」を読みましたか。
そして、この「受験上の注意」を当日持参してください。

・少し失敗した科目があっても気持ちの切り替え　→　合計点勝負
・センター試験後の１・２週間　→勉強しながら、出願校も決めていく

５　２年生はこれからの１年をイメージする絶好の機会

1 月 17 日・18 日	センター試験	
4 月 17 日ごろ	新 1 年生が入ってきて、部活動等も活気づく	3 ヶ月
7 月 17 日ごろ	最後の湖陵祭（気合いが入る？）	3 ヶ月
10 月 17 日ごろ	毎週のように模擬試験がある	3 ヶ月
来年の 1 月	来年のセンター試験	3 ヶ月

これからの 1 年間を 3 ヶ月ごとにまとめると、上のようになります。
この図からわかってもらいたいことは、

①実はこれから、4 月、3 年生になるまでの間で、1 年間の１／４過ぎてしまうのです。
１／４の間、受験を意識することなく、勉強をしない場合、つらくなること言うまでもありません。

②受験までの 1 年間の折り返しは「湖陵祭」。湖陵祭が終われば、受験期間は後半戦です。
つまり、夏休みは、すでに 1 年間を受験期間とするなら、後半に位置しているのです。

③「夏休みがんばろう」とよく受験生は思うものですが、思ったようには、うまくいかなかったという声もよく耳にします。頑張るぞと意気込む割には、うまくいかない理由は簡単です。前半さぼっていたからです。前半で作るべき、勉強の習慣や各科目の基礎基本が無い状態で、後半に突入するというのは、危険なことです。しかし、体育系部活動の高体連大会、最後の湖陵祭などもあり、4 ～ 7 月の 3 ヶ月は少し勉強量が落ちるかもしれません。前半戦のカギを握るのは、1 ～ 4 月の 3 ヶ月です。

④最後の 3 か月はどんな生徒でも、たいてい勉強します。差は縮まりにくいのです。